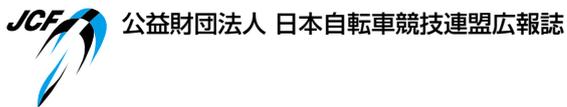


自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



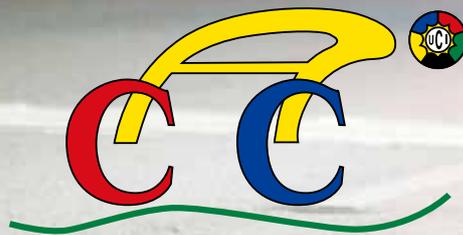
Night Championships 2015

The 35th Asian Track and Road Cycling Championships & The 22nd Asian Track and Road Junior Cycling Championships 2015 and The 4th Asian Para Cycling Championships



シクリスムエコー No.211
2015年2月・3月号
(アジア選手権特集号)

第35回 アジア自転車競技選手権大会 第22回 アジア・ジュニア自転車競技選手権大会 (タイ/ナコンラチャシマ)



アジア・ジュニア選手権女子5冠の梶原(ロードレース)

	アジア選手権トラック・エリート短距離	2
	今後の大会予定	4
	アジア選手権トラック・エリート中距離	5
	アジア選手権トラック・ジュニア	8
	競技大会結果	14
	男子エリート・ロードレースランキング	14
	2015東京都個人ロードタイムトライアル大会	15
	日本代表選手団	15
	日本新記録	15
	連盟の動き	15
	日本代表選手団	16
	アジア選手権ロード・男子エリート/U23	17
	アジア選手権ロード・女子エリート	20
	アジア選手権ロード・ジュニア	21
	2015UCIトラック世界選手権	24

KEIRIN 

この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。  競輪の補助事業

RINGRING!
プロジェクト

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。
くわしくはウェブで 
RINGRING! 検索

Track Races

(エリート短距離)



男子エリートスプリント決勝、河端 vs AWANG

男子エリートチームスプリント 2 位の日本チーム



男子エリートケイリン 2 位の渡邊



女子エリートチームスプリント 2 位の日本チーム 女子エリート 500mTT、3 位の前田

【トラック・エリート短距離】

大会1日目

チームスプリント予選。女子メンバーは1走前田、2走石井。男子メンバーは、1走雨谷、2走渡邊、3走新田。男女とも好走し、予選2位通過で決勝へ進む。男女共決勝戦は、韓国チームと。女子チーム1走の前田は僅かにリードされ2走の石井へ。石井はスピードを保ちゴールするも、差がつかず2位確定。男子チームは雨谷のスタート良く、2走の渡邊も好走し、3走の新田へ。ラスト半周過ぎにスピードが落ちゴールし、惜しくも逆転され2位確定となる。

大会2日目

男子エリートケイリン 6位の脇本



男子ケイリン。渡邊と脇本が出場。2選手共、1回戦、準決勝と力の違いをみせ連勝し、決勝に進む。決勝戦、スタートの並びは4番手脇本、5番手渡邊。ラスト2周過ぎ、渡邊先行態勢に上昇するも、先頭の中国選手に突っ張られて、渡邊・脇本は後方に置かれてラスト1周半となる。脇本が猛ダッシュして先行にいくが、またも先頭にはでられず後方へ下がる。ラスト半周では、先頭3人から2車身ほど離れて渡邊が追走する苦しい展開となる。渡邊が猛スピードでまくり追い込んで4人一斉ゴール。写真判定の結果、辛くも渡邊が2位確定。

500mTT、出場は前田。スタートが決まり、スピードの持続よくゴールして3位確定。

大会3日目

女子スプリント。前田と石井が出場。予選は前田5位、石井8位となり、1/8決勝で日本同士の対戦となる。インスタートの前田がラスト1周から先行



女子エリートケイリン7-12位決定戦、1位加瀬(左)と8位小林(奥)

して逃げ切り、前田が1/4決勝、石井は敗者復活戦へ。敗者復活戦、石井の対戦相手はインド選手と韓国選手。石井は、スタートから積極的に動き、逃げ切りで1/4決勝へ進む。1/4決勝の石井の対戦相手はオリンピックメダリストの香港選手である。1本目2本目とも敗れはしたが、果敢に攻めてメダリストを苦しめ、今後につながる内容であった。前田の1/4決勝の相手は、中国選手である。1本目は押圧行為で警告をうける。2本目はスタートから前へ出て、徐々にスピードを上げ先行するもゴール手前でかわされた。5-8位決定戦は韓国選手、マレーシア選手と。スタートから積極的に先行態勢をとる石井。ラスト1周、3番手にいた前田がスパートし先行、2番手石井となり2人のゴール勝負。前田のスピード良く逃げ切りとなり、前田が5位、石井は6位確定。

大会4日目

男子スプリント。河端と雨谷が出場。予選は河端2位、雨谷8位となり1/8決勝へ。1/8決勝、河端の対戦相手はマレーシア選手。インスタートの河端は、余裕の逃げ切りで1/4決勝へ。雨谷の対戦相手は中国選手。ラスト1周、中国選手の押圧行為で雨谷勝者となり1/4決勝へ。

大会5日目

女子ケイリン。加瀬と小林が出場。1回戦、1組加瀬、2組小林。共にラスト1周手前4コーナーから先行し2着。準決勝、1組小林はラスト1周半3番手。2番手にいたインド選手がダッシュし先行、小林は出遅れて車間が大きく開き、必死に追うも後続選手に捲られて4着でゴール。2組加瀬、ラスト1周半、4番手から先行にいく

も、2段掛けの韓国作戦に突っ張られて出られず5着ゴール。両選手とも7-12位決定戦へ。7-12位決定戦、スタートから1番手小林、2番手加瀬。ラスト1周半、3番手にいたマレーシア選手に出ら

れてしまう。加瀬がすかさずラストホームからダッシュし先行する。かかりがよく、ゴールまでスピードが落ちず1着ゴールし、加瀬7位確定。小林はなんとかゴール2着に入り8位確定。

男子スプリント1/4決勝。河端の対戦相手はイラン選手。1本目2本目共、先行逃げ切り、貫録勝ちで1/2決勝へ。雨谷の対戦相手は、韓国選手。1本目、韓国選手に逃げ切られ敗れる。2本目、ラスト1周過ぎの1コーナーからダッシュし先行するも、ゴール手前にかわされ僅差で敗れる。5-8位決定戦、対戦相手は中国選手、イラン選手、マレーシア選手である。雨谷はスタートで4番手につけ、ラスト1周の後方から一気にダッシュして先行し、ゴールまでスピード良く逃げ切り5位確定。男子スプリント1/2決勝。河端の対戦相手はカザフスタン選手である。1本目2本目共、逃げきりで決勝へ。決勝戦の対戦相手は、前年度覇者でレース巧者のマレーシア選手である。1本目、ラスト1周手前の2センター



男子エリートスプリント5-8位決定戦の雨谷

で内を突き、先行逃げ切りで先取る。2本目、マレーシア選手がバックから先行し、逃げ切られて敗れる。3本目、マレーシア選手はスタートから積極的にスピードを上げて、2本目と同じ展開となるが、河端が渾身の捲り追い込みでゴールする。金メダル獲得。

エリート男子短距離は、常にアジアでトップクラスの力を示し、世界でも表彰台を狙える位置にいるが、今後は若い世代を大会等に派遣して育成していきたい。また女子に関してはパワー不足が感じられた。前田を除いて、全般に競技経験が少ない選手が多いため、合宿、大会等で経験をつませ強化していきたい。(坂本 勉)

【競技結果】

第35回アジア自転車競技選手権大会 (2015/2/4-14 タイ/ナコンチャツ)

<トラック-短距離> 2015/2/4-8

男子エリート500mタイムトライアル

- 1 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 2 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 3 KANG Dong Jin KOR



- 5 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

男子エリート1kmタイムトライアル

- 1 IM Chae Bin KOR 1:04.113
- 2 WU Lok Chun HKG 1:06.029
- 3 KHADEMI Ehsan IRI 1:06.056
- 4 一丸 尚伍 大分 BS アンカー 1:06.365

男子エリート4kmタイムトライアル

- 1 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 2 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 3 KAPUNYA Worayut THA



- 6 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

男子エリートチームスプリント

- 1 韓国 1:00.555
- 2 日本 渡邊・新田・雨谷 1:00.975
- 3 中国 1:01.554



女子エリート500mタイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG 35.017
- 2 MUSTAPA Fatehah MAS 35.664
- 3 前田佳代乃 京都 36.806



女子エリート1kmタイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 LIN Junhong CHN
- 3 MUSTAPA Fatehah MAS
- 5 前田佳代乃 京都
- 6 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子エリート4kmタイムトライアル

- 1 LIN Junhong CHN
- 2 LEE Hye Jin KOR
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 7 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟
- 8 小林 優香 JPCA JPCU 福岡

女子エリートチームスプリント

- 1 韓国 46.337
- 2 日本 前田・石井 46.965
- 3 中国 46.699



今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
3月15日	九州チャレンジサイクルロードレース	RR	熊本/五木
3月15日	第20回西日本チャレンジサイクルロードレース大会	RR	広島/中央森林公園
3月19日～22日	全国高校選抜大会	RR/TR	熊本/熊本・山鹿
3月26日～29日	UCI世界選手権大会-パラサイクリング・トラックレース	PARA	オランダ/アペルドールン
4月5日	第40回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本サイクルスポーツセンター
4月11日～12日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	静岡/伊豆ベロドローム
4月11日～12日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	静岡/伊豆ベロドローム
4月11日～12日	MTB 菖蒲谷 クロスカントリー CJ-2 XCO	MTB	兵庫/たつの 菖蒲谷森林公園
5月2日～3日	MTB インターナショナル XCO びわこ高島ステージ	MTB	滋賀/高島 朽木スキー場
5月4日～5日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	TRIAL	佐久/ミレニアムパーク
5月4日～5日	MTB インターナショナル DHI びわこ高島ステージ	MTB	滋賀/高島 箱館山スキー場
5月16日～17日	MTB 八幡浜国際クロスカントリー	MTB	愛媛/八幡浜
5月17日～24日	ツアー・オブ・ジャパン	RR	大阪～東京
5月18日	第62回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	大分/別府競輪場
5月28日～31日	ツール・ド・熊野	RR	和歌山/新宮他
5月30日～31日	MTB 富士見パノラマ大会(春) CJ-1 DHI/XCO	MTB	長野/富士見パノラマリゾート
6月13日～14日	全日本学生選手権個人ロードレース大会	RR	長野/奥木首湖
6月13日～14日	MTB 新幹線開業記念 妙高杉之原 STAGE CJ-2 XCO	MTB	新潟/妙高杉ノ原スキー場
6月21日	全日本選手権自転車競技大会-ロード・タイムトライアル	RR	栃木/大田原
6月21日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・ロード	PARA	栃木/大田原
6月27日～28日	全日本選手権自転車競技大会-ロードレース	RR	栃木/那須
6月27日～28日	MTB クロスカントリーエリミネーター in 前橋 CJ-2 XCE	MTB	群馬/前橋 岩神緑地

男子エリートポイントレース1位の倉林



Track Races (エリート中距離)

【トラック・エリート中距離】

2月4日

■女子チームパーシュート予選

加瀬、上野、塚越、中村が出走。序盤から想定ペースに乗せる事が出来ず、4分54秒974の4位。翌日の1回戦は予選トップの中国との対戦になる。

■男子チームパーシュート予選

窪木、近谷、倉林、一丸が出走。中盤にペースが乱れ、4分20秒510の3位。翌日は予選2位の香港と1回戦を戦う。

■女子ポイントレース(24km)

塚越が出走。香港と韓国の選手を単独で逃がしてしまい、13点差の3位に終わるが、前半戦からコンスタントに点数を重ねるなど、レース内容は良かった。このイメージを今後活かす様アドバイスする。

2月5日

■女子チームパーシュート1回戦

予選と同じメンバーが出走。予選の走りを修正し、4分49秒962までタイムを縮めたが、対戦相手の中国に敗れる。チャイニーズ台北との3-4位決定戦は、メンバーを中村から小島に変更。前半から積極的な走りで、7周目に迫り着いて3位が決まる。

■男子チームパーシュート1回戦

予選と同じメンバーが出走。スタート前にもう一度、各自の役割を確認して送り出す。終始安定したペースを刻み、4分16秒283で香港に勝利し、中国との1-2位決定戦へ進む。決定戦で

は対戦相手の中国から一度もリードを奪う事が出来ず、4分16秒744の2位で終えた。

中国のタイムは4分14秒494。

■男子スクラッチ(15km)

一丸が出走。スクラッチの直後がTP1-2決定戦のため途中リタイヤ。

2月6日

■男子1kmタイムトライアル

一丸が出走。後半まで安定したペースを刻み、1分06秒365の4位。3位との0.3秒差は、今後のスタートを強化することでクリアできるだろう。そうすれば3秒台も見えてこよう。

■女子3km個人パーシュート

塚越が出走。前半を抑えて入り、中盤はイーブンペースで3分58秒185の3位通過。午後の3-4位決定戦に進む。決定戦は序盤からペースが上がらず、対戦相手に競り負けて4位となった。

塚越に限らず、ペースを刻む事が苦手な選手が多い。タイムの向上に重要な要素なので、しっかりと強化して行きたい。

■男子ポイントレース(40km)

倉林が出走。熱帯地方のポイントレースは暑さから持久勝負になる事が多く、スタート前は全身を水で濡らして暑さ対策をさせる。

序盤で1lapをしてポイントリーダーとなったが、中盤以降は後手に回る展開が多く、苦しい走りが続いた。他の選手の足が止まった終盤にアタックが決まり、UAEを逆転して優勝。中距離

陣にとって勢いづく勝利となった。

■男子オムニウム1日目

窪木が出走。優勝すると世界選手権の権利を得られる重要種目。最初の種目スクラッチは、2名の先行を許したが後続集団から抜け出し、集団の先頭3位でゴール。続くインディビジュアルパーシュートも上手く3位でまとめ、初日最終種目のエリミネーションに繋ぐ。最後まで危なげない走りで1位を獲得。初日を暫定1位で折り返す。

2月7日

■女子スクラッチ(10km)

小島が出走。力を存分に出し切れれば優勝のチャンスがある事を説明し、積極的に走るようアドバイス。

中盤から粘り強く攻めてチャイニーズ台北、香港と三つ巴の展開に持ち込んだが、最後に弱気になってしまい3位に終わる。本人もレース後は相当悔しかったようで、今後の奮起に期待。

■男子4km個人パーシュート

昨年に続き近谷が出走。安定したペースで予選3位通過、夕方の3-4位決定戦に進む。ギヤを上げた決定戦は、予選の記録を更新し3位となる。タイムを短縮するには、トップスピードとトルクの強化が急務である。

■男子オムニウム2日目

2日目最初の種目は1kmタイムトライアル。スタートからペースが伸びず、1分07秒648の6位。続くフライングクラブも力んでしまい、19秒696の7位に終わる。十分逆転が可能な10点差の4位で、最終種目ポイントレースをスタート。順調な走りで序盤に首位に立つが、中盤で下位のUZBに、終盤ではKORに大量得点を許してしまい、13点差の4位に終わる。健闘及ばず世界選手権のチャンスを逃す。

序盤のように、自分のレースが出来れば逆転は十分可能だっただけに、悔しい結果となった。

■女子オムニウム1日目

上野が出走。今回は7人でアジアチャンピオンを争う。得意のスクラッチは、スタート後から積極的に攻めたが抜け出せず、ゴール勝負で6位。続くインディビジュアルパーシュートは4分02秒812で4位。初日最後のエリミネーションは5位、総合6位で初日を終えた。

出走人数が少ないアジアレースは、選手間のマークが厳しく、得意のゲーム系での苦戦が大きく響いた。

男子エオムニアム 4 位の窪木 (エリミネーション)



女子エリートスクラッチ 3 位の小島



女子エリートオムニアム 6 位の上野 (スクラッチ)



女子エリート個人追抜 4 位の塚越



男子エリート 4km 個人パーシュート 3 位の近谷



男子エリートスクラッチの一丸



女子エリートポイントレース 3 位の塚越

2月7日

■女子オムニアム 2日目

500mタイムトライアル。十分にアップして望ませるが、スピードが上がらず39秒323の6位。世界と戦う事を考えると屋外でも37秒台は出しておきたいところだ。続くフライングラッ

プは21秒945の6位。最終種目ポイントレースを前に、1位の中国とは36点差、lapを中心に作戦を組み立てる。序盤から何度も仕掛けるが、スピードの差がつけられず、決定的な逃げに持ち込めない。結局最後まで持ち味を発揮出来ず、53点差の6位に終わった。

今大会の結果を踏まえ、引き続き各選手の得意とする箇所は最大限に伸ばし、課題は早急な改善を目指し、今シーズンも目標に向かってチーム全体を引き上げて行きたい。

(飯島 誠)

女子エリートチームパーシュート 3位の日本 男子エリートチームパーシュート 2位の日本



【競技結果】

第35回アジア自転車競技選手権大会 (2015/2/4-14 タイ/カンチャナ)

<トラック>中距離> 2015/2/4-8

男子エリート 4km 個人パ-シュート

- 1 PARK Sang Hoon KOR 4:34.995
- 2 CHEUNG King Lok HKG 4:40.583
- 3 近谷 涼 富山 日本大学 4:45.582



男子エリートスクラッチ (15km)

- 1 KHALILIKHOSROSHAHI Behnam IRI 19:13
- 2 MORALES Jan Paul PHI -1lap
- 3 LIU Chin Feng TPE -1lap
- 一丸 尚伍 大分 BSア-カー DNF

男子エリートポイントレース (40km)

- 1 倉林 巧和 群馬 日体大大学院 67p
- 2 Yousef Mohamed Ahmed Mirza Ahmadi UAE 55p
- 3 SHIN Dongin KOR 44p



男子エリートオムニアム

- 1 GUMEROV Timur UZB 223p
- 2 IM Jae Yeon KOR 218p
- 3 ZAKHAROV Artyom KAZ 212p
- 4 窪木 一茂 和歌山 県庁/チーム右京 210p

男子エリートチームパ-シュート

- 1 中国 4:12.494
- 2 日本 窪木・一丸・倉林・近谷 4:16.744
- 3 韓国 4:14.597



女子エリート 3km 個人パ-シュート

- 1 HUANG Ting Ying TPE 3:51.876
- 2 YANG Qianyu HKG 3:58.105
- 3 NUNTANA Supuksorn THA 3:56.056
- 4 塚越さくら 鹿児島 鹿体大院 3:59.677

女子エリートスクラッチ (10km)

- 1 HUANG Ting Ying TPE 14:34.695
- 2 PANG Yao HKG
- 3 小島 蓉子 千葉 日本体育大学大学院



女子エリートポイントレース (24km)

- 1 HUANG Ting Ying TPE 47p
- 2 RHEE Chae Kyung KOR 44p
- 3 塚越さくら 鹿児島 鹿体大大学院 34p



女子エリートオムニアム

- 1 LUO Xiaoling CHN 224p
- 2 DIAO Xiaojuan HKG 217p
- 3 HSIAO Mei Yu TPE 200p
- 6 上野みなみ 青森 鹿体大大学院 171p

女子エリートチームパ-シュート

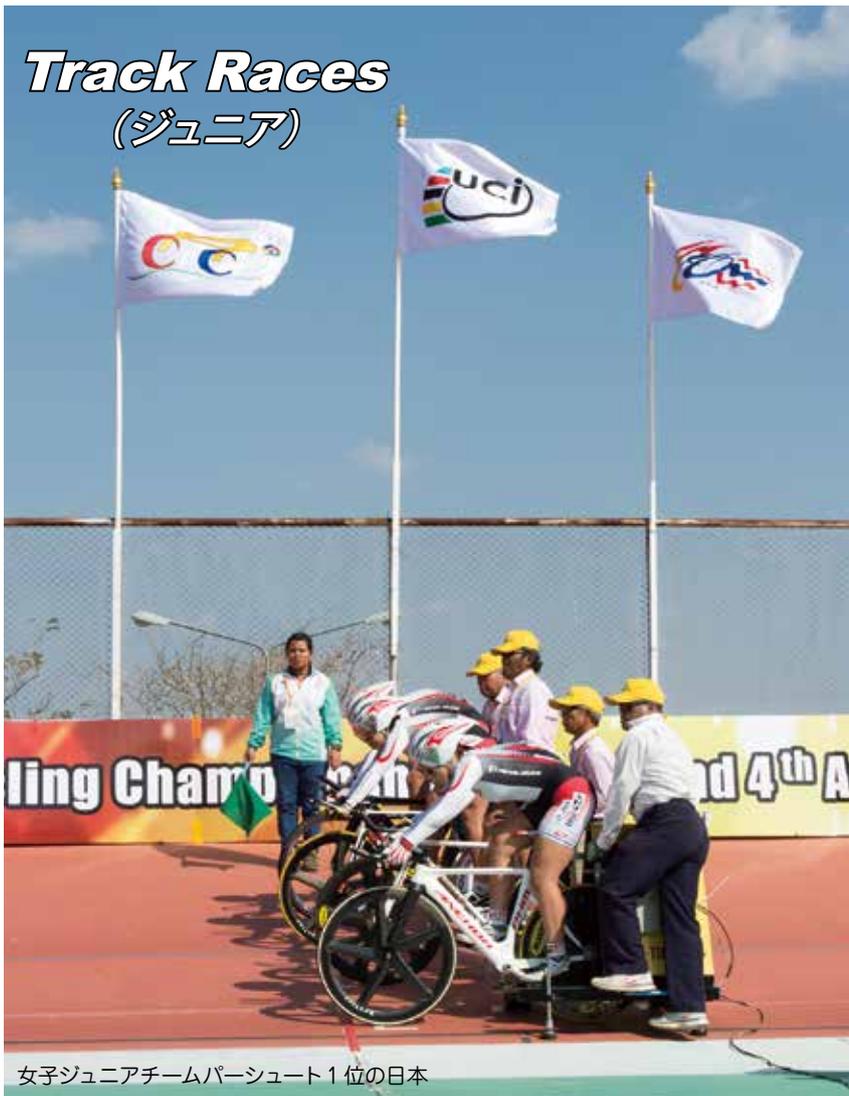
- 1 中国 4:41.681
- 2 ホンコンチャイ 4:47.085
- 3 日本 加瀬・塚越・上野・小島・中村 追抜勝



男子エリートタイムツ ※日本不出場

- 1 ホンコンチャイ 20p
- 2 イラン (-1lap) 13p
- 3 韓国 (-2laps) 28p

Track Races (ジュニア)



女子ジュニアチームパーシュート 1位の日本

【トラック・ジュニア】
2015.02.04 <第1日>

■女子ジュニアポイントレース (20km)

昨年のジュニア世界選手権銀メダリストの梶原が出場。スタート後、最近のアジアジュニアで好成績を残すGENELEVA (カザフ) が徹底マークについた。1回目の中間スプリントはKIM (韓国) が5点を獲得、梶原はこ

のスプリントに参加せず、冷静に次回以降を狙った。2回目以降は積極的に梶原が動きを見せ、2回・3回目の中間スプリントを1位で獲得。以降は梶原がレースの主導権を支配した。最終的に1回目を除いて、全ての中間スプリントで点数を重ねた梶原が、危なげなく優勝した。

■女子ジュニアチームスプリント

大久保・鈴木の走順で臨んだ。予選は49秒281で2位通過。決勝の相手は予選1位の台湾チーム。

台湾チームはスプリントで優勝したCHANと5位のWANGで、スピード力に優れた2人が揃う強豪チームだった。全チーム1走選手の中で、大久保の1周のタイムは26秒869でトップタイム。決勝では26秒674とタイムを伸ばしたものの、総合力の誇る台湾チームに僅かに及ばず2位となった。大久保のスタンディングスタートは、間違いなくアジアのトップクラスである事が確認できた。

■男子ジュニアチームスプリント

森川・伊藤・南の走順で挑んだ。ダッシュ力に優れた1走・森川のスタートに期待したが、練習通りのスピードがみられなかった。伊藤・南ともに20秒台と健闘したが、順位決定に進出できず5位。優勝した台湾チームの走りは、2走・3走ともに19秒台だった。



男子ジュニアチームスプリント 5位の日本

2015.02.05 <第2日>

■女子ジュニア 500m タイムトライアル

大久保が出場。10人中7番目の出走だった。得意のスタンディングでトップスピードに乗せるのが早く、残り半周はやや失速気味になったが、何とか粘ってのフィニッシュ。大久保はより一層持久力を高め、持ち味のスター



女子ジュニアポイントレース 1位の梶原



女子ジュニアチームスプリント 2位の日本



女子ジュニア 500mTT, 3位の大久保

トとスピードをこの種目で効果的に発揮し、更なる記録更新に期待したい。優勝はスプリントを制した台湾のCHANだった。

■女子ジュニアチームパーシュート

予選からすべてのレース計3本を、鈴木・梶原・古山・橋本のメンバーで臨んだ。女子ジュニアとして初の出場となった。これまでの練習では、1周25秒00の平均ラップを目標に取り組んできた。ファイナルでは韓国チームと対戦。1km通過は1分18秒055と順調な滑り出し。2km、3kmと1分14秒台をキープし、対面スタートの韓国チームを追い抜く勢いだった。目標にしてきた4分台には届かなかったものの、2位以下に大差をつけて金メダルを獲得した。



女子ジュニアチームパーシュート決勝終了後

■男子ジュニアケイリン

伊藤・南の2名が出場。1stラウンド各組上位2名が、2ndラウンドへ進出した。2組に出場した伊藤は惜しくも3位。3組の南は2着決定と思われたが、ゴール直前に走路の凹凸に前輪をとられてバウンドさせ、着地の際に体勢を崩し落車してまさかの敗退。

2名とも敗者復活戦に掛けることになった。続くケイリン敗者復活戦は、5人中3位通過で2ndラウンドに進出。1組の南は落車のイメージが多少



男子ジュニアケイリン5位の南

残ったものの、難なく3位での通過。2組出走の伊藤も3着でゴールしたが、2センターからの不規則な横の動きが違反行為と判定され、降格でこの種目を終えた。

続くケイリン2ndラウンド1組に登場の南、3位に入れば1～6位決定戦へ進出。2名の台湾選手に苦戦を強いられたが、3位通過で見事ファイナルへの進出が決定した。金メダルを賭けてのファイナルでは、スピードでは群を抜く台湾のKANGと韓国のOHの2名が、レースの主導権を握った。ペーサー離脱の残り2周、南は後方位置より積極的に前へ出ようと仕掛けたが、大外回りで先方を塞がれて3コーナー過ぎまで後方に位置した。センターから再度スパートを仕掛けるもののゴールまで届かず5着。優勝はスピードに勝った台湾のKANGだった。

■男子ジュニアスクラッチ(10km)

10kmで行われ今村が出場。6km過ぎ、タイミングよく今村がアタック。後続を引き離し周回を重ねた。

今村を後続集団が追う展開となったが、牽制も入りお互いに様子を見ながら追走した。このままの逃げ切りかと思われたが、残り2周回で後続集団に飲み込まれ、最後までスタミナを温存していた地元タイの選手が独走ゴール。今村は積極的に攻めのレースに持ち込んだが7着でゴールした。



男子ジュニアスクラッチ7位の今村

■男子ジュニアチームパーシュート

予選からの3レースすべて沢田・安田・安川・今村のメンバーで出走した。目標は現状を考えて4分30秒を切るタイムを設定し臨んだ。予選4分34秒308で4位通過。1stラウンドの対戦相手は4分30秒974で予選1位の韓国チームだった。予選でのタイム差は約4秒弱あったが、選手達のモチベーションが高く、必勝態勢で臨んだ。デッドヒートを繰り返しながら

男子ジュニアチームパーシュート3位の日本



善戦したが、フィニッシュで僅かに及ばず敗退した。

銅メダルを賭けた順位決定戦、対戦相手は予選で3位の台湾チーム。終始日本チームがリードを保ち、好記録も期待できるハイペースで周回を重ねた。残り4周回、台湾チームが通過の際に弾き飛ばしたラバーパッドがそのまま放置され、スプリンターレーンを塞いだ。4番手に付けていた沢田だけが避けきれずに落車。残す1.2km以上を3名で走ることになったが、失速することなくフィニッシュ。銅メダルを獲得した。

2015.02.06 <第3日>

■男子ジュニア1kmタイムトライアル

和歌山北高の南が出場した。ケイリンでの落車が最後まで尾を引き、自転車へのパワー伝達に全力を出し切れなかった様子だった。スタートからのスピードを最後まで走力をキープし、大健闘をみせ銅メダルを獲得した。



男子ジュニア1kmTT、3位の南

■男子ジュニアポイントレース(24km)

東北高校の沢田が出場した。他国選手の動きに苦しんだレースだった。序盤、韓国選手が2回連続で中間スプリントを制した。3回目に沢田がトップを取るが、直後に体力を温存していた4名の選手がカウンターアタックを仕掛けた。1着のポイント獲得で体力を

消耗した沢田は、スピードに対応できず逃げを許してしまった。その後4回連続で逃げ集団がポイントを獲得し、更に沢田を含むメイン集団に追いつく勢いをみせた。このままでは点数獲得は不可能と判断。敢えてワンラップされ、リセットを促すように指示。終盤の8回目以降は集団でのスプリント勝負となったが、ここで台湾のCHENが体力を残していた。中間スプリントを連続で3回制し、あと2回のポイント周回を残して優勝を決定づけた。

男子ジュニアポイントレース 5位の沢田



■女子ジュニア個人パーシュート

梶原が出場した。予選は2分39秒310でトップ。1kmを1分18秒733で入ったが、後半やや不規則なラップタイムとなった。

金メダルを賭けたファイナルでは1周目のスタンディングスピードを若干抑えさせ、安定したラップで走り切ることを指示。対戦相手は台湾のスプリンター CHANGで、序盤から猛追してくることが想定された。決勝戦での梶原とCHANGは対照的な走りとなった。予選よりも早いスピードで乗せる

女子ジュニア個人追抜 1位の梶原



CHANG に対し、梶原は抑え気味のスタンディング。1km 通過までは若干のリードを許していたが、安定したラップを刻んだ梶原が追い上げをみせフィニッシュ。金メダル獲得となった。

2015.02.07 <第4日>

■女子ジュニアスクラッチ (7.5km)



女子ジュニアスクラッチ 1位の鈴木

7.5kmで行われ、鈴木が出場。ディフェンディングチャンピオンである鈴木は、スタートから徹底的にマークされた。全員が鈴木動きに反応する展開となり、鈴木ペースで周回が進み、ついていけない3名の選手がワンラップされた。勝負は5名の選手に絞られるが、ここでも鈴木はまだ余力を残していた。タイミングよく飛び出した鈴木は他を振り払った形で余裕のゴールを果たした。

■男子ジュニア個人パーシュート

安田が出場した。チームパーシュートで大健闘した安田であり、好記録を期待した。やや緊張気味の安田であったが、スタンディングでの入りや、



男子ジュニア個人追抜 6位の安田



1kmの目安・平均ラップの目標などを確認してスタートラインに立った。1kmの通過タイムがやや物足りず、スピードアップを期待したが伸びることなくフィニッシュ。スピードを乗せきれずに本来の実力を出せないまま5位に終わった。

■女子ジュニアスプリント

大久保、古山の2名が出場。予選200mFTT 大久保 12秒877で5位、古山 13秒741で9位の通過だった。1/8F、古山は予選4位のWANG(台湾)、大久保は予選8位のROSIDI(マレーシア)との組み合わせが決定。古山は格上選手に健闘したが敗退。大久保は積極的な対戦で危なげなく勝ち進んだ。敗者復活戦に回った古山は1着でゴールし、両名の1/4F進出を決めた。古山の対戦相手は予選2位のPARK(韓国)。ストレート負けを喫して5~8位決定戦へ。



女子ジュニアスプリント 6位の古山

女子ジュニアスプリント 3位の大久保



一方、大久保の対戦相手は1/8Fで古山を下したWANG。予選タイムでは僅差で相手が上位となったが、本選の戦いでは大久保が主導権を握り、2本とも先行で勝利した。1/2F進出の大久保の対戦相手は、予選トップのCHANG(台湾)である。スピード力のある相手のペースに封じ込められ、仕掛けるタイミングを失った。2本共先行を許し、差し切れず敗退して3～4位決定戦へ。

5～8位決定戦の古山。持ちタイムの良いWANG中心にレースが動いた。古山は動ける位置取りを確保し、スプリントに備える。結局スプリント力に秀でたWANGが先着。古山は2着で6位が確定した。3～4位決定戦の大久保。対戦相手は予選2位のPARKとなった。大久保は1本目2本目共に積極的なレース運びで先行し、粘りながらも逃げ切りで勝利した。

2015.02.08 <第5日>

■女子ジュニアケイリン

鈴木と大久保が出場した。2名とも1st・2ndラウンド共に危なげなく勝ち進み、Finalへ。Finalはスプリントの優勝者でスピードでは群を抜く台湾のCHANGと、スプリント上位の韓国選手2名が強力なライバルとみた。スタートでは作戦通り、大久保がペーサー直後の位置取りを確保。残り1周半で大久保が先行、鈴木が2番手について盤石な展開をみせた。最終バックストレートから猛烈な勢いで後続選手が追い上げ、ゴール手前は混戦状態。最後まで粘り切った大久保を鈴木が僅差で上回り、鮮やかなワンツーフィニッシュを飾った。

■男子ジュニアスプリント

伊藤と南の出場。予選200mF南11秒534で8位、伊藤は11秒736の12位で通過した。伊藤は予選1位であるマレーシア選手との対戦。唯一10秒台で予選を通過したマレーシア選手に健闘したが、力及ばず敗戦。南も積極的に先行したが、ゴールに届



男子ジュニアスプリント 12位の伊藤



かず1/8敗者復活戦回りとなった。2名共に敗者復活戦でも、思うように力を発揮することが出来なかった。

<総括>

今回、本大会に備えて事前合宿を前橋グリーンドームで行い、万全な体制で大会に臨むことが出来た。

開催地となるナコンラチャシマにある競技場が333m走路であることを想定した練習である。これまでに行ってきた伊豆ヴェロドローム250m木製走路との違いや、チーム種目でのスタンディング練習、周回スピードの微調整や先頭交替の確認作業を中心に大変意義のある合宿となった。また、冬季期間であることから、多くの選手が本格的なバンク練習に取り組む事が困難である事情も考慮して計画した。

本大会では、女子ジュニア選手の躍進が目立った。金メダル5個を含むトータル9個(金:5、銀:2、銅:2)のメダル数は、参加国最多の獲得数だった。今回初参加となったチームパーシュートは、普段の練習・大会では経験出来ない未経験種目であるが、金メダルを獲得することが出来た。これまでのトレーニングキャンプ中、トライ&エラーを繰り返しながら重点的に強化してきた種目だけに、チーム全体として感慨深いものがあった。背景にはトレーニングの成果も然るべきところであるが、鈴木・梶原の両選手を主軸にコミュニケーションをとりながら良い形でまとめ、チームワークで掴んだ勝利だった。予選、1stラウンド、順位決定戦と3レースを走ったが、走る度に先頭交代の技術も向上し、安定度を増した。

更にチーム全体としての精度を高め、各選手の能力を効果的に引き出すことが出来れば、大幅にタイムを短縮する可能性が望める。

日本ジュニアチームだけで落車事故が4件発生した。男子ジュニアチーム



女子ジュニアケイリン 1位鈴木(左)、2位大久保(先頭)

パーシュートは不可抗力の落車事故であったが、ケイリンでは走路の凹凸が原因で勝利を目前に落車した。このイメージが後々にまで尾を引き、勝敗を左右する最大の原因となってしまった。女子スプリントではスタート直後の低速時にグリップを失い、落車したケースが2件。海外の屋外バンクの情報は得ていたものの、整備の行き届いた国内の競輪場や自転車競技場の走路感覚だけでは、全力で戦えない事も改めて痛感させられた。

有効な対策としては、とにかく現地

での乗り込みを入念に行い、体で覚える手段しか見当たらないのが現状だと思う。

今大会はエリート選手団と帯同出来た事で、様々な経験ができたように思う。競技に精通したスタッフからのアドバイスをはじめ、全選手が競技に専念できる万全な体制で、レースに臨むことができた。レース当日は個別のタイムスケジュールに合わせて(競技開始2時間前まで)競技場に入り、メカニック面でも入念なチェックとメンテナンスをしていただき、高校生にとって

は羨ましい限りの参加体制であった。最後に、日本ではシーズンオフに当たる開催時期で、コンディショニングの面での難しさが危惧された。しかし、間もなく始まる国内のシーズンを迎えるにあたり、明確な課題と目標を確認できる良いタイミングとも考えられる。年間を通してのパフォーマンスの維持が必要であり、今後も継続的で定期的なトレーニングキャンプの実施を行い、個人・チームとしてのスキルをベストな状態で保つことも重要な課題であると感じた。(相原 好宏)

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING!
プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで **RING!RING!**



デザイン作成 **無料**

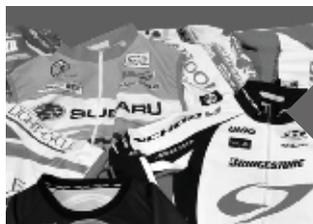


サイズ合わせ **無料**

オーターサイクルウェア
www.wave-one.com
☎フリーダイヤル:0120-230731

WAVE ONE





アイテム数 **40種**



簡単 WEB注文

【競技結果】

**第22回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
(2015/2/4-14 タイ/ナコンチャン)**

<トラック> 2015/2/4-8

男子ジュニアスプリント

- 1 KANG Min Seong KOR
- 2 KANG Shih Feng TPE
- 3 RASOL Muhamad Khairil Nizam MAS
- 9 南 潤 和歌山 和歌山北高校
- 12 伊藤 稔真 三重 朝明高校

男子ジュニア1kmタイムトライアル

- 1 MOHD ZONIS Muhammad Fadhi MAS 1:06.760
- 2 LI Chin Yi TPE 1:07.457
- 3 南 潤 和歌山 和歌山北高1:07.530



男子ジュニアケイリン

- 1 KANG Shih Feng TPE
- 2 OH Je Seok KOR
- 3 MOHD SHAHRIN Mohamed Shariz Eteni MAS
- 5 南 潤 和歌山 和歌山北高校
- 13 伊藤 稔真 三重 朝明高校

男子ジュニア3km個人パシュート

- 1 LEE Taeun KOR 3:36.206
- 2 CHEN Chien Chou TPE 3:36.685
- 3 MITCHELMORE Maximilian Gil HKG 3:41.609
- 6 安田 開 京都 北桑田高 3:44.582

男子ジュニアスクラッチ (10km)

- 1 PHONARJTHAN Patompob THA 13:06
- 2 WOO Yong Suk KOR
- 3 MOHD ZAMRI Eiman Firdaus MAS
- 7 今村 駿介 福岡 祐誠高校

男子ジュニアホイトレース (24km)

- 1 CHEN Chien Chou TPE 48p
- 2 GANUKHANLOU Mohammad IRI 36p
- 3 SIDDIKOV Dilmurodjon UZB 34p
- 5 沢田桂太郎 宮城 東北高校 18p

男子ジュニアチームスプリント

- 1 チャイネースタイハイ 1:03.409
- 2 マレーシア 1:03.608
- 3 韓国 1:03.236
- 5 日本 南・森川・伊藤 1:05.390

男子ジュニアチームパシュート

- 1 カザフスタン 4:26.020
- 2 韓国 4:28.737
- 3 日本 沢田・安川・安田・今村 4:32.977



女子ジュニア500mタイムトライアル

- 1 CHANG Yao TPE 36.724
- 2 KIM Soohyun KOR 37.026
- 3 大久保花梨 福岡 祐誠高校 38.411



女子ジュニアスプリント

- 1 CHANG Yao TPE
- 2 KIM Soohyun KOR
- 3 大久保花梨 福岡 祐誠高校



- 6 古山 稀絵 東京 昭和第一学園高校

女子ジュニアケイリン

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵高校
- 2 大久保花梨 福岡 祐誠高校
- 3 KIM Soohyun KOR



女子ジュニア2km個人パシュート

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 2:38.548
- 2 CHANG Yao TPE 2:39.937
- 3 GENELEVA Nadezhda KAZ 2:38.341



女子ジュニアスクラッチ (7.5km)

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵高校 11:50
- 2 LEUNG Hoi Wah HKG
- 3 RYABOVA Svetlana KAZ



女子ジュニアホイトレース (20km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸高校 53p
- 2 GENELEVA Nadezhda KAZ 46p
- 3 LEUNG Hoi Wah HKG 42p



女子ジュニアチームスプリント

- 1 チャイネースタイハイ 48.073
- 2 日本 鈴木・大久保 48.853
- 3 韓国 49.178



女子ジュニアチームパシュート

- 1 日本 鈴木・梶原・橋本・古山 5:02.084
- 2 韓国 5:10.129
- 3 カザフスタン 追抜勝



競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

2015年UCIトラック世界選手権大会 (2015/2/18-22 フランス・パリ)

男子スプリント

- 1 BAUGE Gregory FRA
- 2 DMITRIEV Denis RUS
- 3 LAFARGUE Quentin FRA
- 19 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 27 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 30 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山

男子1kmタイムトライアル ※日本不出場

- 1 PERVIS Francois FRA 1:00.207
- 2 EILERS Joachim GER 1:00.294
- 3 ARCHIBALD Matthew NZL 1:00.470

男子ケリソ

- 1 PERVIS Francois FRA
- 2 DAWKINS Edward NZL
- 3 AWANG Azizulhasni MAS
- 21 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島

男子個人ハーフマラソン ※日本不出場

- 1 KUENG Stefan SUI 4:18.915
- 2 BOBRIDGE Jack AUS 4:19.184
- 3 MORICE Julien FRA 4:21.419

男子スクラッチ (15km) ※日本不出場

- 1 LISS Lucas GER
- 2 TORRES BARCELO Albert ESP
- 3 LEA Bobby USA

男子ポイントレース (40km)

- 1 ERSHOV Artur RUS 31p
- 2 TERUEL ROVIRA Eloy ESP 30p
- 3 BEYER Maximilian GER 29p
- 11 窪木 一茂 和歌山 県庁 / チーム右京 10p

男子ホムニアム ※日本不出場

- 1 GAVIRIA RENDON Fernando COL 205p
- 2 O'SHEA Glenn AUS 190p
- 3 VIVIANI Elia ITA 181p

男子デイトン ※日本不出場

- 1 フランス 21p
- 2 イタリア 20p
- 3 ベルギー 15p

男子チームスプリント

- 1 フランス 43.136
- 2 ニュージーランド 降格
- 3 ドイツ 43.339
- 11 日本 雨谷・渡邊・中川 44.190

男子チームハーフマラソン ※日本不出場

- 1 ニュージーランド 3:54.088
- 2 イギリス 3:54.687
- 3 オーストラリア 追抜勝

女子500mタイムトライアル ※日本不出場

- 1 VOYNOVA Anastasia RUS 33.149
- 2 MEARES Anna AUS 33.425
- 3 WELTE Miriam GER 33.699

女子スプリント

- 1 VOGEL Kristina GER
- 2 LIGHTLEE Elis NED
- 3 ZHONG Tianshi CHN
- 28 前田佳代乃 京都
- 30 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子ケリソ

- 1 MEARES Anna AUS
- 2 BRASPENNINCX Shanne NED
- 3 GUERRA RODRIGUEZ Lisandra CUB
- 17 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟

女子個人ハーフマラソン ※日本不出場

- 1 WIASAK Rebecca AUS 3:30.305
- 2 VALENTE Jennifer USA 3:33.867
- 3 CURE Amy AUS 3:32.907

女子スクラッチ (10km) ※日本不出場

- 1 WILD Kirsten NED
- 2 CURE Amy AUS
- 3 BEVERIDGE Allison CAN

女子ポイントレース

- 1 POHL Stephanie GER 38p
- 2 上野みなみ 青森 鹿屋体育大学院 28p
- 3 GEIST Kimberly USA 25p

女子ホムニアム ※日本不出場

- 1 EDMONDSOAN Annette AUS 192p
- 2 TROTT Laura GBR 176p
- 3 WILD Kirsten NED 175p

女子チームスプリント

- 1 中国 32.034
- 2 ロシア 32.438
- 3 オーストラリア 32.723
- 13 日本 前田・石井 35.318

女子チームハーフマラソン

- 1 オーストラリア 4:13.683
- 2 イギリス 4:16.702
- 3 カタ 4:17.864
- 12 日本 塚越・上野・加瀬・小島 4:35.929

'14-'15 UCIトラックワールドカップ第3戦 日本代表選手団

大会名 '14-'15 UCIトラックワールドカップ第3戦
開催場所 コロンビア・カリ
大会期間 2015年1月16日～18日
派遣期間 2015年1月10日～21日
代表選手団

- | | | |
|-------|---------|------------------------|
| 監督 | 坂本 勉 | 短距離ヘッドコーチ |
| コーチ | 飯島 誠 | 中距離ヘッドコーチ |
| メカニック | 森 昭雄 | 強化支援スタッフ |
| | 齊藤 健吾 | 強化支援スタッフ |
| マッサー | 柳 浩史 | 強化支援スタッフ |
| | 中山 真臣 | 強化支援スタッフ |
| | 奥隅 信幸 | 強化支援スタッフ |
| ドクター | 金井 貴夫 | 医科学部会 |
| スタッフ | 村田 正洋 | 情報・科学スタッフ |
| 選手 | 中川誠一郎 | JPCA・JPCU 熊本 |
| | 渡邊 一成 | JPCA・JPCU 福島 |
| | 雨谷 一樹 | JPCA・JPCU 栃木 |
| | 河端 朋之 | JPCA・JPCU 岡山※ |
| | 脇本 雄太 | JPCA・JPCU 福井※ |
| | 窪木 一茂 | 和歌山・和歌山県庁 / チーム右京 |
| | 一丸 尚伍 | 大分・ブリクスタジアムカーヤクリンギンチーム |
| | 橋本 英也 | 岐阜・鹿屋体育大学 |
| | 近谷 涼 | 富山・日本大学 |
| | 前田佳代乃 | 京都※ |
| | 石井 貴子 | JPCA・JPCU 千葉※ |
| | 加瀬加奈子 | JPCA・JPCU 新潟 |
| | 塚越さくら | 鹿児島・鹿屋体育大学大学院 |
| | 小島 啓子 | 千葉・日本体育大学大学院 |
| | 中村 紀智 | 千葉・日本体育大学 |
| | ※ = JPC | |

男子エリート・ロードレースランキング 2014/3/1-2015/2/28

順位	名前	所属	TOJ	TOJ	熊野	熊野	全日本	全日本	生口島	T北海道	T北海道	T北海道	全日本	世界選	7/7大会	世界選	7/7大会	Japan	ワールド	7/7選	合計	
			総合	2 St	総合	3 St	TT	ポイント	ポイント	ポイント	総合	1 St	2 St	実業団	TT	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント		ポイント
			2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2015	2015	
			5/18-25	5/20	5/29-6/1	6/1	6/27	6/29	9/07	9/13-15	9/13-15	9/13-15	9/21	9/24	9/27	9/28	9/29	10/19	11/9	2/12	2/14	
1	佐野 淳哉	栃木					11	80		3									6	6	100p	
2	内間 康平	沖縄								16	5		10							40	40	77p
3	増田 成幸	栃木	6					8										3	40			67p
4	井上 和郎	福井						56														66p
5	入部 正太郎	奈良						16	4				7						16			43p
6	山本 元喜	奈良					6	32														38p
7	別府 史之	JPCA					16	7							7							34p
8	畑中 勇介	東京						12					4						10			26p
9	清水 都貴	JPCA						24														24p
10	土井 雪広	山形						20														20p
11	宮澤 崇史	JPCA		2																		17p
11	窪木 一茂	和歌山								12		5										17p
13	鈴木 真理	栃木																	12			12p
13	中根 英登	愛知			12																	12p
15	西谷 泰治	愛知		4				5														9p
16	新城 幸也	-																				8p
16	平井 栄一	神奈川																	8			8p
18	中島 康晴	福井																		6		6p
18	早川 朋宏	愛知						6														6p
20	阿部 篤之	北海道					5															5p
20	吉田 隼人	奈良						3														5p
22	岡 篤志	茨城						4														4p
23	寺崎 武郎	福井										2										2p
23	大場 政登志	茨城					2															2p

2015 東京都個人ロードタイムトライアル大会

2016 年アジア自転車競技選手権リハーサル大会



1月18日(日) 好天の中、東京都大島町西海岸のパームビーチラインにおいて、2016年アジア選手権大会ロードレースのリハーサル大会として、2015東京都個人ロードタイムトライアル大会が開催された。コースは来年の本大会のタイムトライアルコースを使用して行われた。

また前日の17日(土)にはアジア選手権大会ロードコースを試走するサイクリングも開催され、強風のなかJCF強化指定選手と一般参加者、そして地元サイクリストと一緒にサイクリングを楽しんだ。

【競技結果】

2015 東京都個人ロードタイムトライアル大会
2016 年アジア自転車競技選手権リハーサル大会
(2015/1/18 東京 / 大島パームビーチ)

男子エリート登録者 (30.6km)

- 1 佐野 淳哉 栃木 ブラゼン 43:09.392
- 2 徳田 優 京都 鹿屋体大 43:14.604
- 3 中村龍太郎 千葉 イーメ信濃 43:24.710
- 4 岡 篤志 茨城 EQA U23 44:38.125
- 5 SALISBURY Paul 東京 イーメ信濃 45:11.244
- 6 佐藤 秀和 埼玉 サカサガダム 46:30.741

男子ジュニア登録者 (20.4km)

- 1 沢田桂太郎 宮城 東北高校 30:34.163
- 2 渡辺 歩 福島 学法石川 31:38.821

女子ジュニア登録者 (10.2km)

- 1 細谷 夢菜 埼玉 浦和工高 17:46.130

2015 年 UCI シクロクロス世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 UCI2015年シクロクロス世界選手権大会

開催場所 チェコ：ターボール

大会期間 2015年1月31日～2月1日

派遣期間 2015年1月22日～2月3日

代表選手団

監督 澤田 雄一 長野愛知電機

総務 竹之内脩兵 シクロクロススタッフ

メカニック 菅田 純也 チェーンリングプロジェクト

橋本 剛 本田技術研究所

LAEVENS Ranjit

選手

男子エリート 竹之内 悠 京都・ペランクラシック・エコワ

山本 和弘 北海道・弱虫ペダルシクロクロスチーム

男子U23 横山 航太 長野・シマノレーシング

前田 公平 東京・Bioracer Offroad Team

男子ジュニア 竹内 遼 長野・Westberg/ProRide

山田 将輝 長野・PAX PROJECT

女子エリート 豊岡 英子 大阪・パナソニックレディース



日本新記録

Japan New Record

■ スタンディングスタート

・4km団体

女子ジュニア 5'02"084 日本 (鈴木奈央、梶原悠未、橋本優弥、古山稀絵) 2015/02/05 タイ・ナコンラチャシマ

女子エリート 4'35"929 日本 (加瀬加奈子、上野みなみ、塚越さくら、小島蓉子) 2015/02/18 フランス・パリ

連盟の動き (12月下旬～2月下旬)

- | | | |
|--------|---|---|
| 12月24日 | 平成26年度第5回広報部会
2014-2015 タスマニア スポーツ カーニバル | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
於：ニュージーランド・タスマニア 帰国→1/4 |
| 28日 | 平成26年度第4回競技運営委員会 | 於：東京・自転車総合ビル 5階事務局 |
| 1月10日 | 2014-2015トラックワールドカップ第3戦選手団出発 | 於：コロンビア・カリ 帰国→1/21 |
| 15日 | 平成26年度第3回総務委員会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 16日 | 平成26年度第4回理事会、第3回常務理事会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 22日 | 2015年シクロクロス世界選日本代表選手団出発 | 於：チェコ・ターボール 帰国→2/3 |
| 23日 | 平成26年度第3回広報委員会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 26日 | 平成26年度第4回総務委員会、医科学部会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 31日 | 2015年アジア選手権大会日本代表選手団出発 | 於：タイ・ナコンラチャシマ 帰国→2/16 |
| 2月6日 | 平成26年度第3回アンチドーピング委員会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 10日 | 第4回常務理事会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 13日 | 2015年トラック世界選日本代表選手団出発 | 於：フランス・パリ 帰国→2/24 |
| 16日 | 2015年女子ロード Women's Tour of NZ 選手団出発 | 於：ニュージーランド・ウエリントン 帰国→2/23 |
| 21日 | 平成26年度全国自転車競技指導者研修会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |
| 25日 | 平成26年度第5回理事会 | 於：東京・自転車総合ビル 6階会議室 |

2015年アジア選手権大会 日本代表選手団

大会名 第35回アジア自転車競技選手権大会
第22回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

開催場所 タイ王国・ナコンラチャシマ

大会期間 2015年2月4日～14日

<トラック> 2月4日～8日

<ロード> 2月10日～14日

派遣日程

<トラック> 1月31日～2月10日

<ロード> 2月6日～16日

代表選手団

監督 坂本 勉 短距離ヘッドコーチ (トラック)
コーチ 飯島 誠 中距離ヘッドコーチ (トラック)
浅田 顕 ロードヘッドコーチ (ロード)
柿木 孝之 ロードコーチ (ロード・ジュニアロード)
山本 宏恒 ジュニア強化育成部会員 (ジュニアトラック)
相原 好宏 ジュニア強化育成部会支援スタッフ (ジュニアトラック)

メカニック 森 昭雄 強化支援スタッフ (トラック)
齋藤 健吾 強化支援スタッフ (トラック)
中村 仁 強化支援スタッフ (ロード)
西 勉 強化支援スタッフ (ロード)

マッサー 柳 浩史 強化支援スタッフ (トラック)
中山 真臣 強化支援スタッフ (トラック)
井上 良輝 強化支援スタッフ (ロード)
穴田 悠吾 強化支援スタッフ (ロード)

スタッフ 村田 正洋 情報・科学スタッフ (トラック)

総務 貝塚 直子 事務局 (トラック・ロード)

選手

エリート 渡邊 一成 JPCA・JPCU 福島
新田 祐大 JPCA・JPCU 福島
河端 朋之 JPCA・JPCU 岡山
脇本 雄太 JPCA・JPCU 福井
雨谷 一樹 JPCA・JPCU 栃木
窪木 一茂 和歌山・和歌山県庁／チーム右京
一丸 尚伍 大分・プリヂストンアンカーサイクリングチーム
倉林 巧和 群馬・日本体育大学大学院
近谷 涼 富山・日本大学

加瀬加奈子 JPCA・JPCU 新潟
前田佳代乃 京都
石井 貴子 JPCA・JPCU 千葉
小林 優香 JPCA・JPCU 福岡
塚越さくら 鹿児島・鹿屋体育大学大学院
上野みなみ 青森・鹿屋体育大学大学院
小島 蓉子 千葉・日本体育大学大学院
中村 妃智 千葉・日本体育大学
佐野 淳哉 栃木・那須ブラーゼン
新城 幸也 チームヨーロッパカー
内間 康平 沖縄・プリヂストンアンカーサイクリングチーム
中島 康晴 福井・愛三工業レーシングチーム
西 加南子 千葉・LUMINARIA
萩原麻由子 群馬・Wiggle Honda pro team
針谷千紗子 栃木・Live GARDEN BICI STELLE
與那嶺恵理 茨城・サクソバンク FX 証券
U23 徳田 優 京都・鹿屋体育大学 / CHAMPION SYSTEM
小石 祐馬 京都・CHAMPION SYSTEM
岡 篤志 茨城・EQADS
面手 利輝 神奈川・EQADS
ジュニア 南 潤 和歌山・和歌山北高校
森川 康輔 岐阜・岐阜第一高校
伊藤 稔真 三重・朝明高校
沢田桂太郎 宮城・東北高校
安川 義道 奈良・榛生昇陽高校
安田 開 京都・北桑田高校
今村 駿介 福岡・祐誠高校
鈴木 奈央 静岡・星陵高校
梶原 悠未 埼玉・筑波大坂戸高校
橋本 優弥 岐阜・岐阜商業高校
古山 稀絵 東京・昭和第一学園高校
大久保花梨 福岡・祐誠高校
石上 優大 神奈川・横浜高校
富尾 大地 鹿児島・南大隅高校
渡邊 歩 福島・学法石川高校
内村 舞織 鹿児島・南大隅高校

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworlds



JAPAN AIRLINES



Road Races (エリート/U23)

男子 U23、1位小石のフィニッシュ



男子 U23 の徳田



男子 U23 の面手



男子 U23 の岡

【ロードレース】

本来の選手権に使用されるべきアップダウンのあるロードレースコースとは異なり、街中に特設されたフラットな1周8.1kmの周回コースで行われた。夜間開催と時間帯の都合上か、各カテゴリーの距離も通常のロードレースの約半分程度の距離で行われた。

■男子U23・ロードレース

約10日間の現地合宿を経て、小石祐馬、徳田優、岡篤志、面手利輝の4名が出場。優勝を目標とするが、世界選手権ロード出場枠獲得に向けてポイントの確保を考え、あらゆる展開において得点できる作戦で臨んだ。ライバルはカザフスタン、イラン、香港、韓国あたり。レースは序盤から高速ペースで進み、逃げに乗る役割の小石、徳田が積極的に反応し、どのリードグループにも乗る。面手と岡は作戦通り、逃げが成功しなかったときに備えて、優勝候補の韓国勢らをマークしながら後方で待機。中盤を過ぎて先頭グループに徳田、追走グループに小石が入り、その後の展開で小石は先頭グループに数名で追いつき、9名の先頭グループを形成。そこからさらにアタックしたイラン選手に小石が飛びつき、2名でゴールへ向かった。ゴールは経験とスピードでイラン選手に勝る小石が制して優勝した。追走グループでは、小石をアシストした徳田が9位でゴール。混戦に備えた面手と岡は集団ゴールとなったが、小石らの迷いのない攻撃は、彼らへの信頼があったからこそ。レースは予想よりも逃げの展開に傾いたが、4選手が良いコンディションの下、序盤の攻撃に対して作戦通りの対応が出来、レースを有利に運ぶことができた。レース序盤に、面手が他の選手と接触して自転車を交換する場面もあったが、メカニックの対応努力でレースに復帰した。今回の結果により、9月の世界選手権ロードレースU23クラスへの参加と、U23ネイションズカップ最終戦のツール・ド・ラブニールへ選出される可能性が膨らんだ。

■男子エリート・ロードレース

U23同様10日間の合宿を経て本戦へ。今回の優勝と2位には、2016年五輪ロードの1枠が保障される大切なアジア選手権。前日のU23レースの展開を参考に作戦を組み立て、130kmのレースがスタートした。前半から中盤にかけては、他チームの攻撃に乗りながら先行人数を増やしてゆき、

後半には自力で引き離しを仕掛ける作戦。レースは序盤、イランのアスカリが単独で飛び出し、ペースが上がった。その後一時吸収された後、アスカリともう一人のイラン選手を含む10名のグループに内間が乗る。その後、メイングループから新城と中島を含む13人が、前を追う展開になる。中盤には先頭グループに10秒台まで迫るが、足並みが乱れてタイム差は逆に広がる。危険を感じた新城と中島は抜け出しを試みるが、マークがきつく苦戦。何とか抜け出した新城にUAEの選手が付き、ゴール前5kmで先頭グループを捕えるが、すでに先頭からは序盤から飛ばすイランのアスカリが独走を決めており、2位以下のゴールスプリントに流れた。新城の先行で内間がスプリントして2番手でゴール、3位となった。今回は強いマークと、アスカリの強さに苦戦した。五輪ロード1枠の先行確保は逃したが、今後も着実にポイントを稼ぎ国別ランキングを上げて行きたい。

■男子U23・個人タイムトライアル

小石は12月からTTの準備をしっかりと行い、47km近い平均速度で走破し、トップと35秒差の3位に入賞した。課題はペース配分とスピード域の上昇。世界選手権での好成績を目指してもらいたい。

■男子エリート・個人タイムトライアル

佐野は1月時点ではコンディションが心配されたが、改善して事前合宿に参加。充実したトレーニングでさらに調子を上げ本戦へ。4名の格上選手を相手に表彰台を狙ったが、1位とは2分の差があったものの2位まで11秒差までせまる5位となった。課題はペース配分とコース取りの研究。全日本では改善を確認したい。(浅田 顕)



男子エリート 3位の内間



男子エリート中島(右)と新城



男子エリートの佐野



男子エリート2位集団のスプリント、左が内間



男子U23個人TT、3位の小石



先頭集団を追う新城(左)とMIRZA



男子エリート個人TT、5位の佐野

【競技結果】

**第35回アジア自転車競技選手権大会
(2015/2/4-14 タイ/ナコンチャツ)**

<ロードレース> 2015/2/10-14

男子エリート個人ロードレース (130km)

- 1 ASKARI Hossein IRI 2:47:23
- 2 MIRZA ALHAMMADI Yousif UAE 2:48:11
- 3 内間 康平 沖縄 BSアンカー 2:48:11



- 10 新城 幸也 チームヨーロッパカー 2:48:11
- 12 中島 康晴 福井 愛三工業 2:49:00
- 27 佐野 淳哉 栃木 那須ブラーゼン 2:54:58

男子U23個人ロードレース (81.4km)

- 1 小石 祐馬 京都 Champion Sys. 1:46:33
- 2 CHAICHI RAGHIMI Mohammedsmaeil IRI 1:46:37
- 3 PENG Yuan Tang TPE 1:47:59



- 9 徳田 優 京都 鹿体大/C.S. 1:48:03
- 18 岡 篤志 茨城 EQADS 1:49:37
- 24 面手 利輝 神奈川 EQADS 1:49:37

男子エリート個人タイムトライアル (43.6km)

- 1 ASKARI Hossein IRI 53:43.790
- 2 BIZHIGITOV Zhandos KAZ 55:44.781
- 3 CHOE Hyeong Min KOR 55:45.364
- 5 佐野 淳哉 栃木 ブラーゼン 55:56.135

男子U23個人タイムトライアル (32.7km)

- 1 PARK Sang Hoon KOR 41:43.004
- 2 KOLAHDZHAGH Amir IRI 42:03.649
- 3 小石 祐馬 京都 Champion Sys. 42:18.451





女子エリートロードのスタート

■女子エリート・ロードレース

1周 8.1kmのコースを7周する女子ロードには萩原麻由子 (Wiggle Honda pro team)、西加南子 (LUMINARIA)、針谷千紗子 (Live GARDEN BICI STELLE)、與那嶺恵理 (サクソバンク FX 証券)が参加した。

エリート女子のアジア選手権は例年ゆっくりとしたスピードで進み、ゴール勝負となる展開が続いている。今年も例年通り、35km/hあたりのスピードでレースは進む。中盤に香港、中国らが逃げる動きを見せ、そこに萩原らも加わるが、タイムトライアルにも強い韓国のAH NA Reumらが逃げを許さず抑えにかかるため、攻撃は続かない。西は集団前方で、どのような動きにも対応できる位置で動く。萩原は中盤から後半にかけて複数回攻撃を試みるが、マークは厳しく抜け出せない。中盤に針谷が、他の選手と接触して落車してしまう。この周は集団のスピードも非常に速く、集団復帰は果たせなかった。與那嶺は逃げ集団を作る動きをみせるが、集団を引き離せない。ラスト2周からは集団スプリントの展開となり、ゴール前で他の国を寄せ付けないスピードをみせたチャイニースタイペイのHUANG Ting Ying、HSIAO Mei Yuのペアが1、2位を独占した。ゴールスプリントはバラバラとなり、萩原の10位が日本チームの最高位となった。



女子エリート個人TT、2位の萩原

■女子エリート・個人タイムトライアル

1周 10.9kmのコースを3周で争われ、日本からは萩原麻由子が参加した。

1周目のラップでトップに立った萩原であったが、2周目、3周目と韓国の前年度のTTチャンピオンAH NA Reumが萩原のタイムを大きく上回るタイムで回り、30秒のタイム差で2位に終わった。(柿木 孝之)

【競技結果】

第35回アジア自転車競技選手権大会
(2015/2/4-14 タイ/カンチャナマリ)

<女子エリートロードレース> 2015/2/10-14

女子エリート個人ロードレース (73.3km)

- 1 HUANG Ting Ying TPE 1:50:34
- 2 HSIAO Mei Yu TPE 1:50:34
- 3 MENG Zhaojuan HKG 1:50:34
- 10 萩原麻由子 群馬 Wiggle Honda 1:50:34
- 17 西加南子 千葉 LUMINARIA 1:50:45
- 22 與那嶺恵理 茨城 サクソバンク FX 1:50:45
- 37 針谷千紗子 栃木 Live Garden 1:57:09

女子エリート個人タイムトライアル (32.7km)

- 1 NA Ahreum KOR 46:02.272
- 2 萩原麻由子 群馬 Wiggle Honda 46:32.795
- 3 TUVSHINJARGAL Enkhjargal MGL 47:37.656



女子ジュニアロード 1位の梶原



Road Races (ジュニア)

女子ジュニアロード 梶原(右)と内村



■女子ジュニア・ロードレース

1周 8.1km の周回を7周するジュニア女子ロードには、梶原悠未(筑波大坂戸高校)と内村舞織(南大隅高校)が参加した。レースは20時からスタートし、明るく照明されたコースを走る。

昨年のアジア選手権ロードでの走りと同様のトラックアジア選手権のポイントレース、個人追抜、団体追抜で3冠の梶原に対するマークが厳しくなることが予想された。スプリントの展開にならないように、攻撃する時は自分の力を使って徹底的に攻撃して、力で抜け出すことをレース前に確認する。

レース中盤にチャイニーズタイペイの選手が50秒ほどの差をつけたが、1人で逃げ続けるのは難しい。ラスト3周、内村がサポートする形で集団のペースを上げたところから一気

に梶原が攻撃すると、梶原をマークしていた選手も反応できない。チャイニーズタイペイの CHANG Yao のみが反応する。CHANG Yao はスプリント力があり、梶原がこのレースで唯一、一緒に逃げたくない選手であったが、梶原は先頭交代のタイミングでさらにそこからアタックをして独走を開始する。後続からもカザフスタン、香港らが抜け出して梶原を追いかける動きをするが、梶原とはスピードが違った。みるみる差を拡げ、ラスト1周では1分ほどの差となりそのまま1人で逃げ切った。

■男子ジュニア・ロードレース

ジュニア男子は、女子と同じコースを9周する73.3kmで行なわれた。距離が短く、平坦コースということを考えて、強化指定選手の中から石上優大(横浜高校)、渡邊歩(学法石川高校)、富尾大地(南大隅高校)、沢田桂太郎(東北高校)の4名を選出した。どのようなコース、展開でも自在に動くことが出来るキャプテンの石上を中心に、平坦のスピードがあり、スプリントにも絡むことが出来る渡邊、高速巡航を得意とする富尾、集団スプリントになればチームですべてを任せられる沢田の4名。カザフスタンがスプリントの展開にならないように、攻撃的な走りをしていくことが予想されたので、沢田も含めてカザフスタンの動きに乗り遅れないように、前で攻撃に乗っていくことを確認する。

ここ2年のアジア選手権とは異なり単発のアタックは続くが、前半は穏やかにレースが進む。石上が常に集団前方で、どのような動きにも対応できる走りを見せる。4周目から6周目はスピードの変化が激しく推移し、アタックが続くが長い逃げが決まらない。1時間終了時で、アベレージが45km/hから46km/hあたりで進む。集団が疲れたところで石上とカザフスタンが2名で攻撃を開始すると、集団の動きが止まる。15秒から20秒差で集団から2名が逃げ続ける。先頭の2名にブリッジをかける動きが集団で起こるが、強力な2名はタイム差を維持して逃げ続ける。追いたいイラン、タイ、韓国、ウズベキスタンは組織力をみせられず追走の動きがまとまらない。ラスト周回で石上らは集団に吸収されるが、そこからさらに石上が、沢田のために日本チームの列車を作る。集団後

男子ジュニアロード1位沢田のフィニッシュ



方にいた富尾も前に上がり、石上、富尾、渡邊で沢田を牽引する。ラスト600m 付近のUターンやコーナーが滑りやすく危険なため、またジュニアギアという制約もあるため、後手を踏まないように早めに集団前方で位置取りを行ない、渡邊がUターン手前からゴール前の直線までを牽ききる。それにこたえた沢田が、スプリントで他の選手を圧倒して優勝した。

優勝した沢田だけではなく、レース前半は集団を完全にコントロールし、中盤からは攻撃をかけて、更に最後はチームをまとめた石上の走りは、特に素晴らしかった。また富尾も最後の場面では力を振り絞って、チームのポジションをキープした。初遠征の渡邊も合宿で見せたスピードと位置取りのセンスを生かし、中盤までのレースの動きにも良く対応して、沢田のスプリントのための最後の牽引役の役割を見事に果たした。

幸先の良いシーズンインとはなったが、今季初レースということもあり、チームとしての課題も多く見つかったアジア選手権ともなった。より高いレベルで戦うためには脚だけではなく、一人一人が考える力もより求められる。4月から続くネーションズカップに向けて、コースを考慮してメンバーを替えながら9月の世界選手権に向けて戦っていく。



男子ジュニアロードの渡邊



男子ジュニアロードの富尾



男子ジュニアロードの石上





女子ジュニア個人TT1位の梶原

■女子ジュニア・個人タイムトライアル

女子ジュニアタイムトライアルには、トラック種目から全種目で優勝している、梶原悠未の5冠がかかっていた。

1周10.9kmのコースはコーナーが1か所しかなく、テクニックは求められない。ただ見晴らしの良い緩い下り区間と、緩い登り区間が向かい風であ



男子ジュニア個人TT6位の石上

り、ここをいかに乗り切るか、ペース配分が重要なタイムトライアルコースであった。

梶原はスタートして2kmで、1分前スタートのカザフスタンの選手に30秒ほどまで詰めるほどの加速をみせたが、中盤にかけての向かい風区間でタイムを失っていく。コーナーを曲がり、風向きが変わってリズムを取り戻してスピードを維持する。2位のカザフスタンの選手に10秒差をつけて、5冠を達成した。

目標とする世界選手権で結果を出すためには、自分の力をコントロールする能力も問われる。自分の力を理解して、いかにタイムを向上させるためのペース配分をしていくか、今回のタイムトライアルは良い経験となった。

■男子ジュニア・個人タイムトライアル

ジュニア男子は女子と同じ周回コースを2周する21.8kmで争われ、日本からは石上優大が参加した。

午前に行なわれた女子のレースより向かい風区間の風が強く、ただ蒸し暑さを感じる中でのレースとなった。公式のラップタイムが全くラジオッ

ルから流れてこないため、どの順位を走っているのか分からない状況の中、石上は2周目の向かい風区間で少しペースを落とした以外は、一定のリズムで走りきる。コーナーやアップダウンの多いTTコースで力を発揮する石上には少し分が悪かった。優勝した香港のFUNG Ka Hooから、1分15秒遅れの6位となった。(柿木 孝之)

【競技結果】

第22回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
(2015/2/4-14 タイ/バンコク)

<ロードレース> 2015/2/10-14

男子ジュニア個人ロードレース (73.3km)

- 1 沢田桂太郎 宮城 東北高校 1:37:09
- 2 PHONARJITHAN Patompob THA 1:37:09
- 3 KANG Tae Woo KOR 1:37:09



- 23 渡邊 歩 福島 学法石川高 1:37:09
- 38 富尾 大地 鹿児島 南大隅高校 1:37:24
- 39 石上 優大 神奈川 横浜高校 1:37:29

女子ジュニア個人ロードレース (57.1km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 1:29:30
- 2 CHANG Yao TPE 1:30:28
- 3 LEUNG Hoi Wah HKG 1:30:30



- 15 内村 舞織 鹿児島 南大隅高校 1:30:42

男子ジュニア個人タイムトライアル (21.8km)

- 1 FUNG Ka Hoo HKG 29:12.514
- 2 MANO Yuttana THA 29:30.716
- 3 GANJIKHANLOU Mohammad IRI 29:48.265
- 6 石上 優大 神奈川 横浜高校 30:27.618

女子ジュニア個人タイムトライアル (10.9km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 15:33.375
- 2 GENELEVA Tatyana KAZ 15:43.585
- 3 NGUYEN THI Thu Mai VIE 16:13.772





2015 UCIトラック世界選手権大会
日本代表選手団

大会名 2015 UCIトラック世界選手権大会
開催場所 フランス・パリ
大会期間 2015年2月18日～22日
派遣期間 2015年2月13日～24日
代表選手団

- | | | |
|-------|-------|-----------------|
| 監督 | 坂本 勉 | 短距離ヘッドコーチ |
| コーチ | 飯島 誠 | 中距離ヘッドコーチ |
| メカニック | 森 昭雄 | 強化支援スタッフ |
| | 鬼原 積 | 強化支援スタッフ |
| マッサー | 柳 浩史 | 強化支援スタッフ |
| | 中山 真臣 | 強化支援スタッフ |
| スタッフ | 村田 正洋 | 情報・科学スタッフ |
| 選手 | 中川誠一郎 | JPCA・JPCU 熊本 |
| | 渡邊 一成 | JPCA・JPCU 福島 |
| | 河端 朋之 | JPCA・JPCU 岡山 |
| | 雨谷 一樹 | JPCA・JPCU 栃木 |
| | 窪木 一茂 | 和歌山・和歌山県庁／チーム右京 |
| | 前田佳代乃 | 京都 |
| | 石井 貴子 | JPCA・JPCU 千葉 |
| | 加瀬加奈子 | JPCA・JPCU 新潟 |
| | 上野みなみ | 青森・鹿屋体育大学大学院 |
| | 塚越さくら | 鹿児島・鹿屋体育大学大学院 |
| | 小島 蓉子 | 千葉・日本体育大学大学院 |
| | 中村 妃智 | 千葉・日本体育大学 |

世界選手権女子ポイントレース銀メダルの上野 Photo: T.Wako

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.211 2015年2月・3月号 (アジア選手権特集号)

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟
 発行人/橋本 聖子
 編集人/坂井田 米治
 編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
 〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F
 TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>